

関係各位

## 【速報】2001ASTCトライアスロンアジア選手権 マレーシア大会

(ITUワールドポイント対象大会 / ITUトライアスロン世界選手権地域予選会)

<大会概要>

開催日：2001年5月20日(日)

開催場所：マレーシア・ボルネオ島・サバ州・ネクサスリゾートカランブナイホテル周辺

競技距離：51.5km(スイム1.5km, バイク40km, ラン10km)

ITU(国際トライアスロン連合)、ASTC(アジアトライアスロン同盟)公認

### 【女子総合トップ10】

順位	氏名	記録	所属/登録
1	中西 真知子	2時間08分23秒	NTT東日本
2	枇杷田 深雪	2時間12分10秒	ニデック
3	Xing Lin	2時間13分00秒	中華人民共和国
4	大松 沙央里	2時間14分30秒	日本女子体育大学
5	Li Jian	2時間15分33秒	中華人民共和国
6	Shi Meng	2時間17分50秒	中華人民共和国
7	Nicole Budd	2時間19分38秒	中国香港
8	Claire Murray	2時間23分53秒	中国香港
9	Fung Wai Man, Jill	2時間27分33秒	中国香港
10	Yeo Lea Elizabeth	2時間36分27秒	マレーシア

### 【男子総合トップ10および日本人成績】

順位	氏名	記録	所属/登録
1	西内 洋行	1時間56分32秒	チームテイケイ
2	山本 淳一	1時間57分25秒	シャクリー・稲毛ITC
3	山本 良介	1時間58分10秒	京都府協会
4	竹内 鉄平	1時間59分18秒	アラコ
5	Alexzndr Kudryavtsev	2時間00分04秒	カザフスタン
6	Lee Chi Wo, Daniel	2時間00分58秒	中国香港
7	Lu Chundi	2時間02分24秒	中華人民共和国
8	Dmitry Smurov	2時間02分31秒	カザフスタン
9	斎藤 大輝	2時間03分56秒	アラコ
10	Yang Jie	2時間04分50秒	中華人民共和国

### 【女子ジュニアエリートトップ5および日本人成績】

順位	氏名	記録	所属/登録
1	中川 絵理	2時間12分34秒	愛知県協会
2	吉川 咲	2時間17分27秒	稲毛ITC
3	名取 仁美	2時間20分42秒	山梨学院大学附属高校
4	Sneha Shampur	2時間26分48秒	インド
5	Dawn Chia Yi Shan	2時間31分43秒	シンガポール

【男子ジュニアエリートトップ5および日本人成績】

順位	氏名	記録	所属/登録
1	田山 寛豪	2時間00分09秒	流通経済大学
2	Yang Sheng	2時間00分32秒	中華人民共和国
3	平野 司	2時間01分49秒	東豊中高校
4	Kong Jiajie	2時間02分55秒	中華人民共和国
5	原田 雄太郎	2時間05分10秒	栃木県協会
8	狩野 智彦	2時間08分29秒	渋川高校

【男子エイジグループ日本人成績(30~34歳)】

順位	氏名	記録	所属/登録
3	三浦 喜明 (33)	2時間19分09秒	神奈川県連合

【男子エイジグループ日本人成績(35~39歳)】

順位	氏名	記録	所属/登録
1	岩田 隆敏 (36)	2時間19分20秒	岐阜県連合

【男子エイジグループ日本人成績(50歳~)】

順位	氏名	記録	所属/登録
2	中野 昭二 (60)	2時間37分27秒	東京都連合

【大会概要】

今大会で記念すべき第10回となるアジア選手権マレーシア大会が開催された。

男子は、午前7時にスタート。750mを2周回するスイムは、中国のヤン・シェンがリード。日本のジュニア代表の平野司がそれを追う展開に。バイクに入ると、ヤン・シェン、平野、西内洋行、山本淳一、山本良介、ミカエル・クズネソフ(KAZ)の6名が第1集団を形成し、ランスタート時に第2集団に1分10秒差をつける。ランでは、西内と山本(淳)のマッチレースとなるが、山本(淳)が5K過ぎで脱落。西内がそのまま逃げ切り、初のアジアチャンピオンとなった。2位には山本淳一、3位には山本良介が入り、日本勢がメダルを独占した。また、ジュニアでは、田山寛豪が優勝、総合でも6位と健闘した。

女子は7時45分にスタート。予想通り、中西真知子が独泳で後続を引き離しにかかる。2位には中国のシン・リン。バイクスタートから、中西が積極的に逃げ、独走。第2集団には、中川絵理、枇杷田深雪、名取仁美、大松沙央里らが入り、中西を追うがその差はどんどん広がり、バイク終了時には3分差となる。ランに入っても、中西の勢いは止まらず、後続選手をさらに引き離しにかかる。2位争いは熾烈で、枇杷田、中川、シン・リンの3人の混戦となる。2周目に入ると、枇杷田が安定した走りで2位に浮上。中川がシン・リンを引き離し、日本勢の上位独占の期待がかかる。中西は、思い描いていた独走Vを初めてこのアジア選手権で決め、念願のアジアタイトルを手にした。2位には枇杷田、3位にはジュニアトップで中川が入り、女子もメダルを独占した。

この結果、男子では西内・山本(淳)・山本(良)、女子では中西・枇杷田が7月22日にカナダのエドモントンで開催される世界選手権の出場資格を獲得。ジュニア優勝の田山・中川が同地で開催されるジュニア世界選手権の日本代表選手として内定した。

社団法人 日本トライアスロン連合(JTU)

東京都渋谷区渋谷2-9-10 青山キングビル3F

Tel. 03-5469-5401(代) Fax. 03-5469-5403

